

《企画書》

提出者 あゆか

【タイトル】『あいしてるよ』

「あいしてるよ」という、たったひと言。普段なかなか言えないけれど、本当は心の奥にずっとしまってきた大切な気持ちを、絵本の世界を通して素直に届けたい。子どもが上手に言葉を話せなくても、感性はとても豊か。「大好きなママやパパへ、自分の想いを伝えたい！」という気持ちはあるのに、うまく表現できない。親だって、どんなに忙しくても、心の中では「あいしてるよ」を伝えたい。でもストレスや照れが邪魔をして、つい言わずに過ぎてしまう日々。夫婦間でも、年齢を重ねても、素直に愛を伝え合いたい想いは同じ。この絵本は、そんな“言葉にしづらい思い”を、読み聞かせというやさしい形でお届けし、家族みんなの絆を強く結ぶお手伝いをしたいと考えています。

背景・作者の思い：シングルマザーとしての体験：仕事と子育てに追われ、子どもへの愛をどんな形で伝えればいいのか悩んだ時期がありました。反発する長女を前に、このまま愛が届かずに育ってしまうのでは…という不安がありました。

絵本を作ったきっかけ：「あいしてるよ」というシンプルな言葉とやさしいイラストで、自分の想いを伝えられないだろうか。手描きの小さな絵本を作り、娘に読み聞かせを試みたところ、娘の中で何かが変わり始め、自分自身も改めて“子どもを愛している”という気持ちを実感しました。

多くの人との出会い：自費出版ながら、これまでに6,000人以上の方に手に取っていただき、たくさんの感想をいただくうちに、「日本人は言葉に出すのが苦手だけれど、本当は深く愛し合いたい人が多い」ということを強く感じました。もっと多くのご家庭に、この「あいしてるよ」の魔法を届けたいという思いが、この絵本企画の原動力です。

本書の特徴：絵本は、シンプルだからこそ届くメッセージです。日本人が苦手とする「愛している」という言葉を、繰り返し声に出すことで“慣れ”と“安心感”を育む。また、やわらかいイラストと文章で、手描きの優しいタッチが、読んだ人の心にあたたかい世界観を届けます。絵本を読むたびに、自然とハグや笑顔が増え、愛情豊かな絆が深まります。

語彙力が乏しくても、感性が豊かな子どもが一生懸命に伝えようとする『あいしてるよ』。親も、年齢を重ねた夫婦も、口に出すのは少し照れくさいかもしれませんが、やっぱり伝え合いたいメッセージ。愛情表現が下手な人でも、絵本を通じてなら素直になれる。そんな思いでこの絵本を作りました。“家族の絆”をもっと強く、もっと優しく。これまで6,000人以上の方が体験した「言葉の魔法」を、一人でも多くの方に届け、日本中の子どもたちの笑顔を増やしたい——それが作者の願いです。

「愛してるよ」が当たり前になり合える世界が、きっと家族同士の絆をさらに優しく結んでいくと信じています。

【想定する読者ターゲット】

- ① 子育て中のご家族：忙しい毎日に追われても、子どもとの愛情を確かめ合いたい方
- ② 夫婦やパートナー同士：日常生活の中で、改めて愛を言葉にするきっかけがほしい方
- ③ 祖父母や保育士さん、教育関係者：子どもと絵本を通して心の交流を深めたい方

【構成案】

1. 朝のはじまり

主人公のみこちゃんに、お母さんがにこにこ顔で「おはよう、あいしてるよ」と声をかけてくれる。みこちゃんは、ふんわりとあたたかい気持ちになって、頬が赤くなり心の繋がりを感じ「行ってきます！」と外へ出かける。

2. 出会いと『あいしてるよ』

庭の花、森のちょうちょ、亀さん、小鳥さん…道中で出会う生きものに、みこちゃんは次々と「あいしてるよ」と声をかける。言われた動物たちはびっくりしつつも、みこちゃんの想いを受け取り、あたたかい気持ちになる。そして、頬が赤らめながら「ほっ」と「ありがとう」と応える。「あいしてるよ」を伝えるたびに、みこちゃんの心もどんだんぽかぽかしていく。

3. ただいまの時間

遊びつかれたみこちゃんが家に帰ると、お母さんが笑顔で迎えてくれる。「お母さん、ただいま！あいしてるよ」みこちゃんの言葉に、お母さんも「ほっ」と微笑み、ぎゅっと抱きしめ合う。親子のあたたかな気持ちが重なり合って、一日がやさしく終わる。お母さんから受け取った愛が、いろいろな生き物たちに伝わり、一巡回ってお母さんに還ってくる。すると、お家も地球も頬が赤くなり、この世界が愛の絆で結ばれる。

【イラスト】



【プロフィール】

畑鮎香（はた あゆか）
兵庫県丹波篠山市在住
三児の母

<https://www.inochimusubu-ie.or.jp/>